

## エスペラント読書相撲へのおさそい

エスペラント読書相撲協会会長 ほりやすお

家に居ながら世界につながり、学力向上するエスペラント読書相撲に参加しませんか。

詳しい情報は <http://www.esperanto-sumoo.strefa.pl/index.html>

### 多くのエスペランチストの本を読まない現状

私は JEI に行ったときには、まあ、義務のように本を買う。帰りの電車の中でちょっと読み始めるが、すぐ眠くなって、本もそのまま家で、読まれないままで眠ってしまう。本もかわいそうだが、自分の実力も上がらない。世の中には「eterna esperantisto」と悲しそうに自己紹介をする人がたくさんいる。こんな状態を何とか打破しなければ運動は盛んにならない。

こんなとき、ある中学の先生の「英単語相撲」という実践を思い出した。豆テストをするが、英語が不得意な子どもは、やっぱりやる気を出さない。そこで、それぞれに何点取るかという目標を出させ、それを超えたら○、超えなかったら●ということにした。出来ない子どもは、「1点取る」が目標でも良く、1点取れば○がもらえる。こうすることで、出来る子、出来ない子にかかわらず勝負になり、しかも目標は自分で設定したものだから、●は自分との約束が守れなかった、ということになり、批判は自分に向くことになる。この相撲は成功し、当時の人気だった小錦から、色紙も来たそうだ。

これをエスペラントに応用したのが「エスペラント読書相撲」である。

### エスペラント読書相撲は自分との戦い

エスペラント相撲では、参加者は、どの本を毎日何ページ読むかを申告する。相撲が始まり、その日に読めれば○、読めなければ●である。初心者は童話の1ページでも良い。ベテランで年金生活者は難しい本で20ページなど、自分の実力、環境にあった目標を設定する。この相撲は、相手と戦うのではなく、自分と戦うのだ。自分が約束したことをきちんと守れるかどうか、勝負の分かれ目である。そして、初心者でもベテランでも同じ土俵で、勝敗を競うことになる。まさに画期的な発想である。「年間1000ページ読む」などという目標と違って、これなら初心者も参加できる。期間は本当の相撲の開催期間と同じに(原則的には)設定した。だから奇数月で年に6場所、合計90日闘うことになる。

### 国際化し広まるエスペラント読書相撲

第1回からの概要は次の通り。4回目からは外国人にも呼びかけて、国際場所になった。

第1回 2009年9月場所 参加者 18人(日本人18)

第2回 2009年11月場所 参加者 18人(日本人18)

第3回 2010年1月場所 参加者 23人(日本人23)

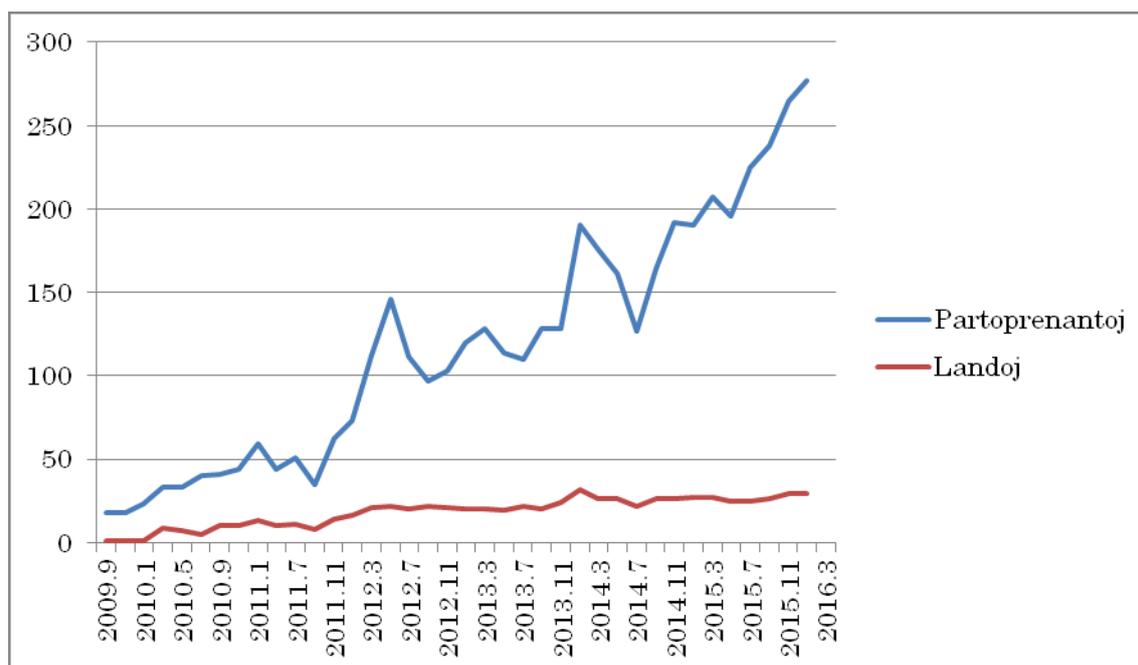
- 第4回 2010年3月場所 参加者 33人 (日本人25、9か国)
- 第5回 2010年5月場所 参加者 33人 (日本人26、7か国)
- 第6回 2010年7月場所 参加者 40人 (日本人33、5か国)
- 第7回 2010年9月場所 参加者 41人 (日本人26、10か国)
- 第8回 2010年11月場所 参加者 44人 (日本人29、10か国)
- 第9回 2011年1月場所 参加者 59人 (日本人27、13か国)

\*3月場所は大地震のため中止

- 第10回 2011年5月場所 参加者 44人 (日本人29、10か国)
- 第11回 2011年7月場所 参加者 51人 (日本人31、11か国)
- 第12回 2011年9月場所 参加者 35人 (日本人21、8か国)
- 第13回 2011年11月場所 参加者 62人 (日本人32、14か国)
- 第14回 2012年1月場所 参加者 73人 (日本人34、16か国)
- 第15回 2012年3月場所 参加者 112人 (日本人45、21か国)
- 第16回 2012年5月場所 参加者 146人 (日本人48、22か国)
- 第17回 2012年7月場所 参加者 111人 (日本人47、20か国)
- 第18回 2012年9月場所 参加者 97人 (日本人30、22か国)
- 第19回 2012年11月場所 参加者 103人 (日本人34、21か国)
- 第20回 2013年1月場所 参加者 120人 (日本人49、20か国)
- 第21回 2013年3月場所 参加者 128人 (日本人49、20か国)
- 第22回 2013年5月場所 参加者 114人 (日本人49、19か国)
- 第23回 2013年7月場所 参加者 110人 (日本人43、22か国)
- 第24回 2013年9月場所 参加者 128人 (日本人49、20か国)
- 第25回 2013年11月場所 参加者 128人 (日本人50、24か国)
- 第26回 2014年1月場所 参加者 190人 (日本人52、32か国)
- 第27回 2014年3月場所 参加者 176人 (日本人46、26か国)
- 第28回 2014年5月場所 参加者 161人 (日本人45、26か国)
- 第29回 2014年7月場所 参加者 127人 (日本人40、22か国)
- 第30回 2014年9月場所 参加者 164人 (日本人50、26か国)
- 第31回 2014年11月場所 参加者 192人 (日本人46、26か国)
- 第32回 2015年1月場所 参加者 190人 (日本人49、27か国)
- 第33回 2015年3月場所 参加者 207人 (日本人46、27か国)
- 第34回 2015年5月場所 参加者 196人 (日本人52、25か国)
- 第35回 2015年7月場所 参加者 225人 (日本人47、25か国)
- 第36回 2015年9月場所 参加者 238人 (日本人49、26か国)
- 第37回 2015年11月場所 参加者 265人 (日本人52、29か国)
- 第38回 2016年1月場所 参加者 277人 (日本人53、29か国)

### 延べ参加者数 4480 人

2015 年になって、最初は 200 人前後であったが、後半になって参加者が増え、今年は 300 に届く勢いである。その理由は、参加者がこの相撲の良さ、意義を実感し始め、世界大会を始めとする様々な催しで相撲分科会を持ち始めたことによる。また口コミでの拡がりも大きい。



### 参加国の内訳

2016 年 1 月場所の参加国は下の通りである。一番左の数字が 2016 年 1 月場所の参加者数。かつこの中は、右から、2015 年 3 月、5 月、7 月、9 月、11 月

Japanio:	53 (52 - 49 - 47 - 52 - 46)
Koreio:	51 (44 - 34 - 32 - 8 - 5)
Francio:	36 (36 - 35 - 33 - 30 - 37)
Vjetnamio:	16 (16 - 18 - 21 - 23 - 25)
Pollando:	15 (16 - 17 - 16 - 14 - 16)
Nepalo:	13 (2 - 1 - 2 - 2 - 2)
Svisujo:	12 (11 - 12 - 1 - 4 - 12)
Brazilo:	9 (11 - 8 - 5 - 5 - 9)
Ĉinio:	9 (10 - 5 - 7 - 3 - 4)
Rusio:	8 (12 - 10 - 10 - 6 - 3)

Italo:	6 (6 - 7 - 6 - 6 - 5)
Finnlando:	5 (7 - 7 - 6 - 5 - 6)
Nederlando:	5 (7 - 4 - 6 - 6 - 6)
Danio:	5 (5 - 4 - 6 - 3 - 3)
Svedio:	5 (5 - 3 - 3 - 4 - 5)
Germanio:	5 (4 - 4 - 2 - 1 - 3)
Serbio:	4 (4 - 3 - 5 - 3 - 4)
Turkio:	4 (2 - 3 - 4 - 3 - 1)
Hispanio:	4 (1 - 4 - 4 - 1 - 2)
Britujo:	2 (2 - 2 - 1 - 0 - 0)
Usono:	2 (2 - 0 - 0 - 0 - 1)
Kanado:	1 (1 - 1 - 1 - 1 - 2)
Tajvano:	1 (1 - 1 - 1 - 1 - 1)
Barato:	1 (1 - 1 - 1 - 1 - 1)
Argentino:	1 (1 - 1 - 0 - 1 - 0)
Grekio:	1 (1 - 0 - 1 - 1 - 1)
Hungario:	1 (1 - 1 - 1 - 1 - 1)
Kirgio:	1 (1 - 0 - 0 - 0 - 0)
Indonezio	1 (0 - 0 - 0 - 0 - 0)
Bulgario:	0 (3 - 3 - 3 - 2 - 2)

上位は、長く日本、フランス、ポーランド、ベトナムが占めてきたが、この2場所で韓国の台頭が著しい。韓国は2017年の世界大会を前に、会員の実力向上を目指していて、相撲をその一手段と考え薦めていることに寄る。それに比べ、日本は、ずっと50前後であり、3月場所では、韓国に抜かれる可能性がある。私はそれを阻止したいと、JEIや個人に訴えかけているが、反応ははかばかしくない。ILEIは相撲を公式に支持しているが、日本ILEIの役員は、松木さん以外の参加はない。そんなのでは困る。

## 大相撲効果

### 1. 学力の向上

一人では読めなかった本も、こうして期限を区切ることで、頑張って読めるようになる。また、国際的な管理団がいて、エスペラントのメールの返事が来るので、エスペラントの交流にもなるし、同じ本をほかの国の人を読んでいるのを知ると共感もわいてくる。だから、読書が進むだけでなく、国際的な連帯もわくようになる。終わってからは、「お陰で、積ん読だった本が読めた」「自分は継続が苦手だったが、全勝できて自分をほめた」など、エスペラント読書の楽しみを発見したり、達成感を感じ

ている人が多い。第100回世界大会の「相撲分科会」で、あるフランス人が、相撲のおかげで著者と出会って新しい人生が開けた、とも話していたから、人生も変えるきっかけにもなっている。

## 2. エスペラント書籍文化への貢献

平均して一場所15日間で、一人が70ページ読む。2016年1月場所では、277人が参加したから、読んだ総ページ数は20000ページになる。これまでの相撲参加者の延べ数は、4480人だから、読んだ総ページ数は、313600ページになる。眠っていた本は大喜び、書架で売られないままでさらされていた本も読まれて大喜び、著者や出版社は自分の本が読まれて大喜びである。この運動がどんどん進んで行ったら、エスペラント運動だけでなく、世界も変えるのではないだろうか。

## 運営も国際的、今後の夢は

300人近い「力士」を管理するのは大変なので、現在は、私以外に、成績を管理する8人（日本人、ポーランド人、フランス人、セルビア人、ベトナム人、トルコ人、イタリア人、ネパール人）とホームページと賞状を管理するポーランド人1人の、国際協力でやっている。

今年中に300人の達成、後2年後には500人を目指している。そのためには、日本場所だけでなく、ポーランド場所、フランス場所、韓国場所など、世界中に数か所、興行主を組織する必要があり、それが課題である。

## 詳しい情報は

<http://www.esperanto-sumoo.strefa.pl/index.html>

ここには、これまでの歴史、規則、成績、各国の会報などに載った記事、読んだ本の感想、場所ごとに読まれた本の一覧、賞状の一覧、参加者の顔写真などなど、豊かな内容になっている。

## 私の雑談

1. 私は、このすもう開始以来、38場所連続全勝です。こういう人が何人かいる。「あの双葉山でさえ、私の前では威張れない」などと冗談を言っている。
2. 相撲が始まると、一日の仕事は、読書から始まる。提唱者が負けていては仕方がないので、絶対に負けないように気を配る。この38場所の間に、母の死もありましたが、その時も休むことはなかった。
3. お相撲さんの苦勞がわかる。15日間は、ただ相撲を見ている分には、結構短い、やっている身には、長い。終わるとほっとする。お相撲さんも同じだろう。しかしお相撲さんは、終わっても稽古、稽古ですし、生活、人生がかかっているのが大変だ。読書相撲のほうは、負けたって何ということはないが、そういう気持ちは、人生の負けへの入り口なので、そうならないように気を引き締めている。
4. この相撲はインターネット時代のおかげである。インターネットがなければ、勝敗を

毎日のように報告して、お互いに励まし合う、などと言うことはできない。

5. エスペラント相撲のおかげで、いとうかんじさん編集の、50 数冊ある Plena Zamenhofa Verkaro (PVZ) を、2015 年末で、読破した。エスペラント相撲が無かったら、こんな快挙は成し遂げられなかったろう。自分が考案したエスペラント相撲だが、その自分の創造性の豊かさ、継続して広める努力に、高い評価を与えたい。

次に、PVZ 完読の簡単な報告を添付する。

## PVZ を読破しました

ほりやすお

「ザメンホフの書いたものは何かありますか」と、愚かな質問を J E I の事務局の石野さんにしたのは、もう 30 年くらい前になるでしょうか。それまで、運動には全く参加しないで、地元で好きにやっていたので、エスペラントそのものについても全く知識がありませんでした。石野さんに紹介されたのが、Zamenfofa Verkaro という本でした。それを読んでちょっと知識が付きました。

その後 J E I の理事になりました。先輩理事の東海林敬子さんから、「理事なんだから Plena Verkaro de Zamenhof (PVZ) を持ってなければダメよ」と言われ、PVZ 全巻を買いました。東海林さんがその保管の担当をしていたのでした。確か 20 万円位したと思います。黒い表紙の厚い本がどさっと大量に送られてきました。すごいのがきたなあ、と思いましたが、当時は働いていたこともあり、一応書棚を空けて並べたものの、それから 10 年は過ぎました。

仕事も辞め暇も少し出来ました。エスペランチストとして、このまま死んであの世に行くとザメンホフさんに「よくやった」とほめられるかなあ、と思った時に、PVZ が目に入りました。こいつを全部読んでからあの世に行きたいな、そうすれば、ザメンホフさんにもほめてもらえるかもしれない、そう思いました。そして、カタログに沿って本を並べてみました。黒いカバーの本と、黄金色のカバーの本と 2 種類、全部で 52 巻ありました。

2009 年 11 月から、エスペラント大相撲を開催し始めました。この「相撲」は大相撲の期間に合わせて、選んだ本を一日につき何ページ以上読むかを決めて、それが読めれば白星一つ、という私が考案した相撲です。この第一回エスペラント相撲には、私は「Ŝtona Urbo を 20 ページ読む」と宣言して参加しています。2010 年初場所には、ザメンホフに関心が向いたのか「Fundamenta Krestomatio de la Lingvo Esperanto 20 ページ」で参加しています。3 月場所に初めて「Plena Verkaro de Zamenhof 20 paĝoj」で取り組み始めました。それから延々と大相撲とともに読み続け、本日 2015 年 12 月 23 日、ついに 52 巻の全巻を読み終わりました。6 年間かかったことになります。エスペラント大相撲がなければ読み切れなかったことでしょう。自分で考案したとはいえ、実に素敵な発明でした。万々歳です。

この6年間で思ったのは、第一に、ザメンホフさんは本当に偉大だということです。エスペラントを作り上げ、初期には「エスペラントの改造」をあちこちから持ちかけられ、それに対応するかに見せながら、結果的にはこれをはねのけ、エスペラントの基礎を固めました。多くの翻訳もし、自分でも創作し、エスペラントの内実を充実させました。同時に、ヨーロッパじゅうから来る本の注文などに対応して発送や会計処理までしています。今のような通信状況がない中で、よくもそんなことまでやり遂げられたものだと思います。それだけでなく、エスペラントの更に上に行くホマラニスモの実現にまで努力するのですからとても人間業とは思えません。

次に思ったのは、この全集を編纂したいとうかんじさんという人もまた尋常な人ではないということです。全集では、各巻の終わりの「あとがき」で、収録したものの解説をしているだけなので、いとうさんがなぜこの全集を作ろうとしたのかは明確ではありません。当初は、外国のザメンホフ研究者もばかにしていたようですが、いとうさんの仕事に次第に賛同して、資料収集に協力しています。いとうさんは、それらに目を通して、「これに関連した資料は、あの巻の何ページを見ろ」などと注釈をつけています。この膨大な資料をどのように整理していたのか、信じられないようなことです。この厚い本を52冊も出すエネルギー、あるいは資金集めなど、神業としか言いようがありません。また、資料を利用して、日本語で分厚い7巻の「ザメンホフ」という本まで出しているのですから、作家としても並々ならぬ力量です。今は、私はこれに取り掛かっています。その他にも「ザメンホフ余滴」「PVZへの招待」もあるので、もう少しいとうさんと付き合っただけのゆえに楽しみが残っています。

いとうかんじさんは、全集の資料全部に目を通したでしょう。それだけでなく、研究もしています。私は、読み飛ばしただけですが、とにかく読破しました。藤本達生さんは、いとうさんの片腕であったようですから、全巻読んだかもしれません。その他、著名な協力者は読んだかもしれませんが、読破した人はこれまで世界に10人いないのではないかと思います。その中に入れたのですから、本当に満足感でいっぱいです。これであの世で、ザメンホフさんといとうかんじさんと、お付き合いができるかなという思いです。

しかし、これに満足してはいけません。読破は、人の後追いです。私の仕事は、現在18巻目まで出た「Raportoj el Japanio」をできるだけ長く出し続けること、震災支援もかねて「世界の旅人堀さんのエスペラント気ままエッセー」を、釜石市唐丹の子ども支援の終わる2020年まで出し続けることです。それらを成し遂げて、あの世でお二人に会いたいものだと思います。